

成人病集団検診 (第2報)

金沢大学結核研究所臨床部 (主任: 水上哲次教授)

水 上 哲 次

岐阜県神岡町病院 (院長: 本多幸三郎)

本 多 幸 三 郎

(受付: 昭和39年11月30日)

わが国における成人病対策は各地における成人病センターの設立, それに伴う成人病検診の実施により着々その成果はあげられてはいるが, 統計の上では, 成人病の代表的な疾患である悪性しゅよう特に胃ガン, あるいは循環器系の疾患特に高血圧症による死亡率は未だ上位を占め, かえって年々増加の傾向さえ示している. その原因は近年種々の啓蒙により一部の地区では成人病に関する認識が深められ早期診療をうける傾向を示して来ているが, 他方大多数の地区では未だ無自覚性のそれ等疾患が放置され, 医療施設を訪れる患者の治療時期を失した例が

依然として多いためと言えよう. 1) 2) 3) 4) 5) 6)

私達は昭和36年度末, 成人病対策の一環として, 石川, 富山, 及び岐阜県下で, 成人病集団検診を行い, 成人病集団検診のあり方, あるいは実施方法の確立を企図し, 無自覚性のそれ等疾患の検出はもとより, 成人病に関する啓蒙運動をすすめて来た. 昭和36年度の結果はすでに第1報として発表してある. 1)

今回は岐阜県, 神岡地区で引続き実施した成人病集団検診, 昭和37年度1,266例, 昭和38年度1,065例の結果を胃集団検診及び高血圧集団検診を中心に報告する.

実 施 要 領

実施要領のうち受付, 調査表作製, 尿検査及び血圧測定は第1報と同様である. 1)

胃胸部間接撮影: 間接撮影装置並びに条件は次の通りである. 発生装置は新規に購入した島津製作所製, 嵯峨号125型 (SM125-L₂) を用いた. これは間接撮影装置で, 定格 125KV, 1.0 μ F, 2mA 連続 (平滑), 管球は回転陽極 X線 CIRCUREX, B型 125KVp の能力を有し, 胃腸心臓用高圧撮影専用の装置で, 螢光板 PG2, 比輝度 100, 比解像力 60, 螢光板極大波長 5,400 Å グリットは M5:1 を使用している. 管球より螢光板までの距離は 90cm, 撮影条件は腹部の場合, 110KV まで充電し, ホトタイマーを使用して, レ線を爆射し, 胸部の場合は波尾切断を KV 式で行い, 70~75KV まで充電後, 30KV 迄放電し撮影した. Camera はキャノンカメラ株式会社製キャノン自動レ線カメラ CX-70MZ, レンズ 120mm F1.5 を使い, Film はフジあるいはサクラの 70mm 長尺 400枚を使用した. Film

現像は 100 枚づつにくぎって, レンドールタンク現像を 5 分間行った. 造影剤としてはミカコック (バリアム商会製) を採用したことは前年度と同様で, 1人 200~150ml を準備した. この間接撮影装置を利用したことにより撮影合が固定のため検者を回転しての撮影術式あるいは透視しながら撮影部位を決定する術式をとれない等の不備を除いては, 前年度の実施に際しての撮影条件の不定, あるいは撮影が不可能に近かった検者の撮影に際しても条件が一定のため, ほど満足できる結果を得ることができた. 撮影方向は立位正面で背腹とした. 所要時間は一人平均 4~5 分を予定した.

撮影順序は昭和36年度実施の経験に鑑み昭和37年度においては, 第1回は胸部, 以下は腹部で第2回は1口のます. 第3回は残り全量 (計約 200~150ml) をのまして直後, 第4回は第3回より10分後, 第5回は30分後に撮影した. 第2回の腹部はレリーフ用, 第3回

は胃の充盈像, 及び食道下部通過状況, 第4回及び第5回は幽門部, 12指腸球部, 胃角等の変形あるいは造影剤の排出状況及び造影剤の遺残像の検索用とした。これは昭和36年度において胃下垂像による類通過障害像, あるいは12指腸球部の変形等が混在し, レ線 Film の判定に支障を来たした例が多かったためにとられた処置で, 上記の方法を採用したことによりある程度まで鑑別が可能となった。昭和38年度においては更に, 小彎側あるいは12指腸起始部の変形の見のがしを少なくするよう, 第4回に第1斜位を採用し, 第5回は20分後撮影とした。この方法により疑像の判定には満足できる結果を得た。しかし胃性胃炎との鑑別が不充分なため, 今後更に撮影方向の検討が必要である。また昭和38年度より嚥下困難あるいは心窩部の違

和感を訴える人には食道撮影を追加した。この方法を7例に実施し内1例の食道ガンを発見できたことは大きな収穫であり, 今後の集団検診実施方法のありかたに一方を示唆することができたものと考えている。

その他, 問診, 検便, 調査表と Film の整理, 間接撮影 Film の読影, 異常例の抽出, 第1次精密検診の実施要領, 治療並びに経過観察の実施等に関しては昭和36年度の方法に準じた。また第2次精密検診例にたいしては, 金沢大学結核研究所附属病院において, 胃液分割採取, 細胞診, あるいは特殊撮影により, また必要に応じては試験開腹を行い診断の確実性を期したことは前年度と同様であった。また集団検診編成表は表1の通りである。

検 診 成 績

I 胃集団検診成績

昭和37年度の検診人員は表2のごとく, 1,266例で, うち40才以上は1,024例, 男性441例, 女性583例で, 年令別にみると40~49才の442例が最も多い。昭和38年度においては表3のごとく1,065例で, うち40才以上810例, 男性355例, 女性455例で, 両年度共に女性の受診率が高い, 年令別にみると40~49才の360例が最も多く, 高年令層になるに従い受診率の低下がみられたことは両年度共に同様であった。

胃間接撮影におけるしゅようあるいはかいようの所見は陰影欠損, ニッシエ, 異常変形あるいは通過障害像等であるが, その内特に異常変形あるいは通過障害像に重点をおいて観察したことは昭和36年と同様であった。昭和37年度あるいは昭和38年度において撮影術式を昭和36年度の経験に鑑み変更したことは実施要領のところで述べた通りである。その他の諸検査事項を加味しての要精密検診例は表2のごとく昭和37年度においては1,266例中109例(8.6%)で40才以上は1,024例中94例(9.1%)であった。うち男性441例中53例(13.1%), 女性583例中36例(6.1%), 昭和38年度においては表3のごとく1,065例中115例(10.7%)で, 40才以上は810例中92例(11.3%), うち男性355例中56例(15.7%), 女性455例中36例(7.9%)といずれも男性が

女性に比べて2倍も多い。

要精密検診例の受診結果は表4のごとく昭和37年度においては, 胃ガンの疑7例, 胃かいよう7例, 同疑5例, 十二指腸かいよう16例, 同疑5例, 胃炎35例, 胃下垂17例, 爆状胃2例, のう状胃1例, 胃ポリープの疑1例, 十二指腸憩室1例, 異常所見なし11例の計109の例で, 昭和38年度においては胃ガンの疑11例, 胃かいよう4例, 十二指腸かいよう12例, 食道ガン1例, 同疑1例, 胃炎43例, 胃下垂33例, 十二指腸憩室1例, 脾のうしゅの疑2例, 胃アトニー2例, 胃切除後の状態4例, 異常所見なし1例の計115例であった。

上記において述べたように, 私達が特に重要視している通過障害あるいは異常変形を中心に, 胃ガンの疑, かいよう, あるいは同疑及び胃炎を取りあげてみると, 表5のごとく, 昭和37年度においては異常変形がみられた51例中17例33.3%, 通過障害がみられた19例中6例31.2%がかいようであった。昭和38年度においては異常変形がみられた63例中15例, 23.8%であるのに通過障害例においては11例中1例にかいようがみられたにすぎない。このことは通過障害と異常変形所見との鑑別が立位のみによる間接撮影方法の工夫により間接撮影所見上の特長を或る程度まで各症状別につかむことが出来たも

のと考える。しかし、38年度におけるごとく、又37年度においても同様であるが、胃炎例が相等数加わっていることより、私達は諸種の検査成績からの鑑別診断を更に確実にするよう検査方法を検討した。

まず、胃集団検診において重用視されている検便潜血反応の結果を取りあげてみよう。

私達は今回は特に第1回検査での潜血反応陽性例に対し、出来るだけ検査を2回実施し、その結果を検討し診断の補助とした。表6のごとく、昭和37年度においては潜血反応陽性は精密検診実施109例中69例、陰性は38例で、陽性例が約2倍も多い。これを病類別でみると、胃ガンの疑>かいよう>かいようの疑>胃炎の順に陽性例は少なく、かいようの内、胃かいようのごときは7例全例陽性であった。潜血反応2回実施群においては胃ガンの疑、あるいはかいよう例においては大多数例が2回共陽性を示し、1回陽性例でもその過半数以上はその反応度において中等度以上を示していた。（検便2回実施例表は略す）。

昭和38年度においては陽性57例、陰性56例と両群間にはほとんど差はないが、かいよう例においては陰性例が多い逆の結果がみられた。

次に間接撮影所見と潜血反応を組合せ、各病類別に検討すると、表7のごとく、昭和37年度においては異常変形(+), 潜血反応(-)群にかいよう例は17例中12例70%の高率に発見され、潜血反応2回実施群でみるところの発見率が更に高率を示した。（検便2回実施群表は略す）。

昭和38年においても昭和37年度におけるほど著明ではないがほぼ同様な結果を示していた。更にこの組合せにもう一つの検査事項問診すなわち検診者の訴えを加味して検討すると更に明白な結果を得ることが出来た。しかし、表7より明白なように両年度を通じて、間接レ線有所見群のみより、あるいは潜血反応陽性群のみより、更に訴え陽性群のみよりかいよう等を抽出出来たことは従来の報告にみられる様に、胃集団検診における「みのがし」を少しでも少なくするためには、少なくとも問診すなわち訴えの

調査、潜血反応及び胃間接撮影の三者が必須検査事項であると言えよう。

昭和37年度における40才以上の第2次胃精密検診までにおける年令別、性別及び病類別比較結果は表8のごとくで、昭和38年度の結果は表9のごとくである。すなわち昭和37年度においてはガンの疑7例、男性4例(0.9%)、女性3例(0.5%)、胃かいよう18例、男性15例(3.4%)、女性3例(0.3%)、十二指腸かいよう26例、男性14例(3.1%)、女性12例(2.1%)と全て男性例に多く、特に胃かいようにおいては6倍も多い。年令別においては胃かいよう、十二指腸かいよう共に50才以下の中年層に多い。その他、爆状胃2例、おう状胃1例、胃ポリープの疑、十二指腸憩室各1例、がみられた。胃炎は83例、男性54例(12.2%)、女性29例(4.9%)、と男性に圧倒的に多く、かいようあるいは胃ガンの疑の発見年令層と一致している。従来の報告にみられるように胃炎が胃かいようあるいは胃ガンへの前駆症状あるいは準備状態であるとすれば、今後の要経過観察群の最右翼に位置するものと言えよう。

胃下垂は103例、男性84例(19.0%)、女性191例(32.7%)と女性が3倍も多い。所見なしは男女共に55%前後を示し、年令別においても大差はみられなかった。昭和38年度においては胃ガンの疑11例、男性8例(2.2%)、女性3例(0.6%)、食道ガン1例、男性、同疑1例、女性、胃かいよう4例、男性3例(0.8%)、女性1例(0.2%)、十二指腸かいよう10例、男性7例(1.9%)、女性3例(0.6%)で昭和37年度同様男性例が多く、年令別においてはかいよう群は中年層に多い。その他に十二指腸憩室1例、脾のうしゅの疑2例である。胃炎は81例、男性45例(12.6%)、女性36例(7.9%)で男性に多く、胃下垂は196例、男性56例(15.7%)、女性140例(30.7%)と女性に多いことは今までの報告と一致している。所見なしは481例、男性220例(61.9%)、女性261例(57.3%)で男性にやゝ多く、年令別においては大差がみられなく、50~60%前後であった。39才以下の受診

例は訴えの多い人達が受診したためと、例数が少ないため、参考までに列挙した。

私達は胃集団検診の実施に際し、胃間接レ線所見、検便潜血反応及び訴えの三者が必須検査事項であると上記において述べて来たがその中でも特に訴えない群より無自覚性の疾患を早期に発見し、早期に治療へもってゆくことこそ最も重要なことと言えよう。そこで表10のごとく昭和37年度、あるいは表11のごとく昭和38年度の検診例を病類別とし、胃症状の訴えを中心にして検討してみた。

昭和37年度の男性では訴えなし群222例中136例(61%)、軽度訴え群108例中56例(51%)、中等度以上訴え群111例中53例(47%)と訴えのある例ほど有所見例が多い。病類別に訴えない群を比較検討してみると、胃かいよう15例中6例(40%)、十二指腸かいよう14例中7例(50%)、胃炎54例中23例(42%)と案外無自覚性例が多い。女性においてもほぼ同様の傾向がみられた。昭和38年度の男性では訴えなし群176例中108例(61%)、軽度訴え群104例中65例(62%)、中等度以上訴え群75例中47例(62%)と訴えのある例にやゝ有所見例は多い。病類別に訴えない群を比較検討してみると、胃かいよう3例中2例、十二指腸かいよう7例中3例、胃炎45例中19例(42%)と37年度同様無自覚性例が多い。女性においても男性とほぼ同様な傾向がみられた。このように無自覚性の胃かいようあるいは十二指腸かいよう又は胃炎が早期に相当例発見出来たことは大きな収穫であったと言えよう。(年令別表は略す)。

胃集団検診附記

第2次精密検診、すなわち特殊撮影、胃液検査、細胞診、あるいは必要に応じて実施した開腹術の結果、昭和37年度の胃ガンの疑7例は胃かいよう3例、他は胃炎であり、胃ポリープの疑は来院せず検査不能であった。昭和38年度においては胃ガンの疑11例はかいようあるいは胃炎で、食道ガンの疑1例には異常所見はなかった。隣のうしゅの疑2例は来院せず検査不能であった。

よって昭和37及び38年度における胃集団検診においては38年度の切除術が実施された食道ガン1例を除いては胃ガンの発見例はなかった。

II 高血圧集団検診成績

高血圧検診における諸種検査要領は昭和36年に準じた。1)

昭和37年度における30才以上の検診例は1,249例で、男性551例、女性736例、昭和38年度においては、1,029例、男性432例、女性597例であった。

表12は縮期圧、表13はち期圧を示し、これ等のひん度分布曲線を男女別に示したのが、図1である。昭和37年度における縮期圧では、年令の増加に比例して高い血圧を示す例数が増加し、男性においては50~54才より140~159mmHgを示す例数が増加し、55~59才においては160~179mmHgへとPeakが移動する。女性においては男性より早くすでに45~49才で140~159mmHgを示す例数が増加し、50~54才で140~159mmHgへとPeakが移動し、55~59才では更に160~179mmHgへとうつる。ち期圧においては男性では50~54才で70~99mmHgの間に例数が集まり、55~59才で90~99mmHgへとPeakが移動し、そのPeakは年令に比例して上昇移動を示すが、女性においてはすでに40~44才より90~99mmHgにPeakが見られる。昭和38年度においても、Peakの高低はあるが年令的移動は、縮期圧、ち期圧共にほぼ同様な傾向を示していた。

上記の血圧を昭和36年度と同様Masterの規準に従い分類すると表14のごとく、縮期圧においては、昭和37年では正常域が40才より年令の増加につれて減少し、高血圧例が逆に増加している。これを男女別でみると男性では55~59才で高血圧群が増加し、60~64才でやゝ低下するも65~69才では急激な上昇を示している。女性では40~44才より徐々に増加するも65~69才においては男性より少ない。しかし、40~54才間の高血圧例は男性に比し、やゝ多い。昭和38年度においては、昭和37年度の場合と男女のカーブが逆の結果を示すも65~69才における高血圧

性に多例は男性に多く、又40~54才間の高血圧例は女。ち期圧においては表15のごとく昭和37年度では正常域は50~54才を境としてやゝ低下を示し、逆に高血圧群が増加する。これを男女別でみると男性においては50~59才で高血圧例が増加し、女性においてはすでに40~49才より増加し、55~59才で最高となる。しかし、女性においては、高血圧準備状態と考えられている亜高血圧例はすでに40~44才よりみられた。昭和38年度においては、程度の差こそあれ、ほぼ同様な結果を得た。Masterの規準による縮期圧及びち期圧を表16のごとく、組合せてみると、男性においては45~49才でⅦ群すなわち正常高血圧群が出現し、55~59才でⅣ群すなわち亜高血圧、高血圧群に更に同年令で、あるいは65~69才でⅠ群すなわち高血圧、高血圧に移行する。女性においては40~44才ですでにⅧ群すなわち正常、亜高血圧群の出現がみられ、55~59才でⅦ群すなわち正常、高血圧群へ、そして60~64才でⅠ群すなわち高血圧、高血圧群に移行している。昭和38年度においてもほぼ同様であった。すると神岡町における高血圧例の出現はまずち期圧に高血圧症状が出現し、縮期がこれにふずいして完全な高血圧症状へと移行していくことが判った。この傾向については今後例数をふやして検討したい。

胸部間接撮影所見における心変形像有所見群をMasterの規準に従っての各群と比較検討すると、昭和37年度においては、表17のごとく、血圧異常群に465例中123例(26%)の心変形異常例がみられた。これを男女別にみると男性179例中43例(24%)、女性286例中79例(27%)とやゝ女性に多い。更に各群別に比較検討するとⅠ>Ⅲ>Ⅳ>Ⅶ>Ⅴ>Ⅵ>Ⅱ>Ⅲの順に少なくなり、高血圧、高血圧群に最も多い。男女別では男性Ⅲ>Ⅰ>Ⅴ=Ⅶ>Ⅳ>Ⅱ>Ⅲの順に、女性Ⅰ>Ⅳ>Ⅲ>Ⅴ=Ⅶ>Ⅵ>Ⅱ>Ⅲの順に少なくなる。男性では高血圧、正常群に、女性では高血圧、高血圧群に心変形例が最も多い。年令別にみると年令が高くなると心変形の合併例が増し、男性では65才以上、女性では55才より増加を示している。(年令別表は略す) 昭和38年度

においては、血圧異常355例中43例(12%)に、心変形がみられ男女別にみると男性144例中20例(13%)、女性211例中23例(10%)とやゝ男性に多い。これを各群別に比較検討するとⅢ>Ⅳ>Ⅰ=Ⅶ>Ⅴ>Ⅷ>Ⅵ>Ⅱの順に少なくなり、高血圧、正常群が最も多い。男女別にみると男性Ⅲ>Ⅰ>Ⅳ>Ⅷ>Ⅱ>Ⅴ=Ⅶ>Ⅵの順に、女性Ⅶ>Ⅴ>Ⅲ>Ⅳ=Ⅵ>Ⅱの順に少ない。すなわち男性では高血圧、正常群、女性では正常、高血圧群に心変形例が多い。年令別では37年度と同様な年令が高くなると心変形の合併例が増し、男性では65才より、女性では55才よりすでに増加がみられた。(年令別表は略す)。

次に尿中のたん白排泄状況と高血圧との関係を検討した。表18のごとく男性においては縮期圧190mmHg以上、ち期圧90mmHg以上とMasterの規準による高血圧群に属する例に陽性例が多く、特に縮期圧においては亜高血圧群よりその合併例数が増し、高血圧群になるとその例数の増加が目立つ。女性についての成績は不正確を免れないので参考までにとどめた。

胃集団検診においてものべた様に高血圧例においても無治療例あるいは無自覚例の抽出にとめた。表19のごとく、昭和37年においては血圧異常群465例中121例(26%)が治療中あるいは既治療例のうち男性176例中46例(22%)、女性286例中81例(28%)である。Masterの規準による各群別で比較すると高血圧、高血圧群においてすら非治療群は57%と半数以上を示している。年令別にみると45~60才の間に非治療群は50%以上多く、女性では35才ですでに出現している高血圧にもかかわらず無自覚性例が目立つ。(年令別表は略す)。昭和38年度においては更にその率が高い。(年令別表は略す)。住民の健康管理の一環として、血圧測定の実施により、高血圧症に関する知識の普及についての向上はみられるが死亡統計よりみて依然として高位を占めていることより今後更に強力に推進すべきであることを痛感した。

III 乳せんしゅよう

昭和37年度及び昭和38年度における乳せんし

ゆよの発見は数例にすぎず、全例慢性乳せん症で乳ガンの発見例はなかった。

IV 肺ガン並びに肺結核

昭和37年度、昭和38年度において肺ガンの発見例はない。表20のごとく、肺結核は昭和37年度は36例、昭和38年度は9例と発見例数は少なくなっているが、これは決して肺結核り病例数の減少ではなくて、有所見例の検診参加例数の低下のためと考えている。しかし上記発見例は全例既往歴者で新患発見例はなかった。けい肺結核、昭和37年度6例、昭和38年度7例の全例は治療中あるいは経過観察例であった。

V 検便成績

1) 虫卵

検便虫卵実施により表21のごとく昭和37年度においては十二指腸虫2例、かい虫73例、東洋毛様線虫6例、昭和38年度においては十二指腸虫1例、かい虫58例、ぎよう虫3例の保有虫卵者を発見した。この結果は従来の報告と比較して低い。このことは昭和36年度にも報告したご

とく、保健衛生業務の反映と考へたい。

2) 潜血反応

胃集団検診における検便潜血反応の意義の重要性が徹底したのか、予期以上の成績を得ることが出来、胃症状の訴えあるいは胃間接撮影所見と共に3つの必須検査事項たり得たことはすでに上記で述べた通りである。胃集団検診成績の結果を参照されたい。

VI 検尿成績

高血圧検診成績の処で述べたので参照されたい。

VII その他

内臓完全転位症2例を発見したことは昭和36年度と同様であった。

VIII 受診回数率

表22のごとく、昭和38年度における受診回数率をみると、3年連続は20%、2年連続あるいは交互受診率は33%、新規受診率は46%で、約半数が2回以上の受診例であった。

結 語

私達は岐阜県神岡地区における年令40才以上を対象とした胃集団検診及び高血圧集団検診を企画し、昭和36年度に引続き、昭和37年度は1,266例、昭和38年度は1,065例を実施した。胃集団検診において発見したおもな胃疾患は昭和37年度においては、ガンの疑7例、胃かいよう18例、十二指腸かいよう26例、胃炎83例、胃下垂103例、昭和38年度においては、胃ガンの疑11例、食道ガン1例、胃かいよう4例、十二指腸かいよう10例、胃炎81例、胃下垂196例で、両年共に胃下垂は最も多く、胃炎はこれについている。年令別にみるとかいよう例は胃炎と同様中年層に多い。性別にみるとかいよう並びに胃炎は共に男性に多く、胃下垂は女性に多い。第2次検診により胃ガンの疑昭和37年度の7例、昭和38年度の11例はかいようあるいは胃炎で、胃ガンの発見例は両年を通じて1例もなかった。しかし、昭和38年において受診者の訴えによる

食道間接撮影術式検査の追試で、食道ガンを1例発見することが出来た。胃症状の訴えあるいは検便潜血反応検索結果より、胃間接撮影所見において、一見異常所見なき例よりかいようを発見出来たことは胃集団検診における「みのがし」を出来るだけ少なくするためにも、胃間接撮影に加うるに、胃症状の訴え、更に検便潜血反応の三検索が必須事項であると考え。自覚性あるいは無自覚性にかかわらず胃炎の発見例が案外に多く、年令的にみるとかいようあるいは発ガンの年令に一致して増加していることより、胃炎よりの悪性化とゆう意味においても経過観察群の最右翼におかれるべき所見であると考え。

高血圧集団検診において、年令別に血圧変化を検討すると年令が高くなるのに比例して高い血圧を呈する例が増加した。Masterの規準に従い高血圧例変動を分類し比較すると縮期圧に

おける男性では55才より例数が増し、65才でカーブの急上昇を示し、女性では40才より徐々に増加し、55才では男性例数よりやや多いが65才では少なくなる。ち期圧においては男性では50才より女性ではすでに40才より増加がみられ55才で最高値を示す。今回の高血圧検診より神岡町における高血圧例の出現はまずち期圧に高血圧症状が出現した後、縮期圧がこれにふずいして高血圧症へと移行する傾向がみられた。

胸部間接撮影所見における心変形所見例と高

血圧例を比較すると男性では65才より、女性では55才よりすでに心変形の合併例が増加している。尿中のたん白排泄状況と高血圧症例との関係を検討すると縮期圧190mmHg以上、ち期圧90mmHgすなわちMasterの規準によれば高血圧群に属する例にじん臓の合併症が加わっている。このことは昭和36年度と同様であった。高血圧例群に案外非治療群あるいは無自覚性高血圧症例が多いことが目立った。

文 献

- 1) 成人病集団検診第1報：金大結研年報，20（中），103，1962.
- 2) 胃集検：日本胃集団検診学会，1号，1963.
- 3) 胃集検：日本胃集団検診学会，2号，1963.
- 4) 胃集検：日本胃集団検診学会，3号，1964.
- 5) 胃集検：日本胃集団検診学会，4号，1964.
- 6) 厚生指標特集：国民衛生の動向，1963.

表 1 神岡町集団検診編成表

- I 指導並びに企画，水上哲次
- II 集団検診並びに胃精密検診担当
 医師：村沢健介，高野徹雄，出口國夫，村上尚正，高田英之，岩倉衛，
 上原時雄，本多幸三郎
 医学部学生：平沢謙太郎，福田 学
 レ線技師：福田英雄，西家偶彬，渡辺猛雄
 神岡町保健婦：2名
 レ線補助者：2名
 事務補助者：4～5名
- III 経過観察並びに治療担当
 神岡鉦山病院：富田 国夫，他
 神岡町病院：本多幸三郎，他
 開業医の方々
- IV 集計担当：村沢健介，本多幸三郎

表 2 昭和37年検診人員年齢別比較表 (実数)

検診人員 1,266例 (109例, 8.6%) ()内は精検例数

年齢	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計
男	23 (3)	47 (6)	102(19)	89(11)	85(14)	56 (7)	47 (6)	36	26 (1)	441(58)13.1%
女	51 (2)	104 (2)	144(16)	107(4)	129(5)	84 (4)	54 (4)	37 (3)	28	1,024(94)9.1%
										583(36) 6.1%

表 3 昭和38年検診人員年齢別比較表 (実数)

検診人員 1,065例 (115例, 10.7%) ()内は精検例数

年齢	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計
男	23	47(10)	73(17)	81 (9)	58(10)	45 (8)	46 (6)	25 (4)	27 (2)	355(56)15.7%
女	51 (7)	104(4)	113(8)	93 (4)	93(9)	68 (5)	51 (6)	19 (3)	18 (1)	810(92)11.3%
										455(36) 7.9%

表 4 40才以上精密検診病類別比較表

(実数)

病類別	年度	
	昭和37年度	昭和38年度
胃ガンの疑	7	11
食道ガン		1
同 疑		1
胃かいよう	7	4
同 疑	5	
十二指腸かいよう	16	12
同 疑	5	
胃 炎	35	43
胃 下 垂	17	33
爆 状 胃	2	
の う 状 胃	1	
ポリープの疑	1	
十二指腸憩室	1	1
脾のうしゅの疑		2
異常所見なし	11	1
アトニー		2
胃切除後の状態		4
計	109	115

表 5 間接撮影所見と精密検診比較表

その 1 昭和37年度

間接所見 精検所見	通障(+) 異変(+)	通障(-) 異変(+)	通障(+) 異変(-)	通障(-) 異変(-)	通障(-) 異変(-) 臨所(+)	計
胃ガンの疑	1	4		1	1	7
かいよう	1	16	5	1		23
同 疑		7	1	1	1	10
胃 炎	2	20	9	1	2	34
計	4	47	15	4	4	74

通障……通過障害 異変……異常変形 臨所……臨床所見

その 2 昭和38年度

間接所見 精検所見	通障(+) 異変(+)	通障(-) 異変(+)	通障(+) 異変(-)	通障(-) 異変(-)	通障(-) 異変(-) 臨所(+)	計
胃ガンの疑	1	9	1			11
かいよう	1	14				15
胃 炎	6	32	2	1	1	42
計	8	55	3	1	1	68

通障……通過障害 異変……異常変形 臨所……臨床所見

表 6 検便潜血反応と精密検診比較表

その1 昭和37年度

潜血反応 病類別	胃ガンの疑	胃かいよう	同疑	十か二い指よ腸う	同疑	胃炎	胃下垂	爆状胃	のう状胃	ポリープ	十二指腸憩室	アトニー	異常なし	計
-	1		2	5	2	14	8	1		1			4	38
+	6	7	3	11	3	20	9	1	1	1		1	6	69
不明						1					1			2
計	7	7	5	16	5	35	17	2	1	2	1	1	10	109

-……陰性 +……陽性 (検便2回実施群表は略す)

その2 昭和38年度

潜血反応 病類別	胃ガンの疑	胃かいよう	十か二い指よ腸う	食道ガン	同疑	胃炎	胃下垂	術後の状態	脾のうしゆの疑	十二指腸憩室	アトニー	異常なし	計
-	4	3	7	1	1	21	15	1	1	1	1		56
+	7		5			21	18	3	1		1	1	57
不明		1				1							2
計	11	4	12	1	1	43	33	4	2	1	2	1	115

-……陰性 +……陽性

表 7 間接撮影所見，精密検診，潜血反応，胃症状訴え比較表（実数）

その 1 昭和37年度

間 接 所 見		通障(+)	通障(-)	通障(+)	通障(-)	通障(-)	計
精 検 所 見		異変(+)	異変(+)	異変(-)	異変(-)	異変(-) 臨所(+)	
潜血(+)	胃ガンの疑	1	2			1	4
	かいよう		9	3	1		13
訴え(+)	同 疑		2				2
	胃 炎	1	8	2			11
30							
潜血(+)	胃ガンの疑		1		1		2
	かいよう		3	1			4
訴え(-)	同 疑		2	1	1		4
	胃 炎		4	3		1	8
18							
潜血(-)	胃ガンの疑						
	かいよう	1	1	1			5
訴え(+)	同 疑		3			1	4
	胃 炎	3	5	2		1	9
18							
潜血(-)	胃ガンの疑		1				1
	かいよう		1				1
訴え(-)	同 疑						
	胃 炎		3	2			5
7							
計	胃ガンの疑	1	4		1	1	7
	かいよう	1	16	5	1		23
	同 疑		7	1	1	1	10
	胃 炎	2	20	9	1	2	34
74							

潜血……潜血反応 訴え……胃症状の訴え 通障……通過障害 異変……異常変形 臨所……臨床所見
 （検便2回実施群表は略す）

その 2 昭和38年度

間 接 所 見		通障(+)	通障(-)	通障(+)	通障(-)	通障(-)	計
精 検 所 見		異変(+)	異変(+)	異変(-)	異変(-)	異変(-) 臨所(+)	
潜血(+)	胃ガンの疑		2				2
	かいよ	1	1				2
訴え(+)	胃	2	7	1			10
	炎						
14							
潜血(+)	胃ガンの疑	1	4				5
	かいよ		3				3
訴え(-)	胃	2	7	1	1		11
	炎						
19							
潜血(-)	胃ガンの疑		1	1			2
	かいよ		7				7
訴え(+)	胃	1	12			1	14
	炎						
23							
潜血(-)	胃ガンの疑		2				2
	かいよ		3				3
訴え(-)	胃	1	6				7
	炎						
12							
計	胃ガンの疑	1	9	1			11
	かいよ	1	14				15
	同 疑		32	2			42
	胃 炎	6			1	1	
68							

潜血……潜血反応 訴え……胃症状の訴え 通障……通過障害 異変……異常変形 臨所……臨床所見

表 8 昭和37年度40才以上検診人員1,024例の年令別, 病類別比較表 (実数) ()内は%

年令	性別	病類別	胃ガン	胃かい	同疑	十二指腸	同疑	爆状胃	のう	ポリ	十二指腸	胃炎	胃下垂	アト	胃切除	除の	所見	計
		の疑	よう		かい			状胃	胃	一の疑	憩室			ニ一	後の	状態	なし	
70以上	男			1 (3.8)		1 (3.8)	2 (7.6)					6 (23.0)	4 (15.3)		2 (7.6)	10 (38.4)	26	
	女			1 (3.4)		2 (6.8)	1 (3.4)					3 (10.3)	6 (20.6)			15 (53.5)	28	
65~69	男			1 (2.7)		1 (2.7)	1 (2.7)					3 (8.3)	3 (8.3)		1 (2.7)	26 (72.2)	36	
	女			1 (2.7)		1 (2.7)						1 (2.7)	11 (29.7)		2 (5.4)	21 (56.7)	37	
60~64	男		1 (2.1)	1 (2.1)		1 (2.1)			1 (2.1)			8 (17.0)	8 (17.0)		1 (2.1)	26 (55.3)	47	
	女					1 (1.8)		1 (1.8)				3 (5.5)	15 (27.7)		1 (1.8)	33 (61.1)	54	
55~59	男		1 (1.7)			2 (2.5)	1 (1.7)					8 (14.2)	8 (14.2)		1 (1.7)	35 (62.5)	56	
	女				1 (1.1)	1 (1.1)						5 (5.9)	26 (20.9)		1 (1.1)	50 (59.5)	84	
50~54	男		4 (4.7)	1 (1.1)	3 (3.5)	1 (1.1)						12 (14.1)	17 (20.0)		1 (1.1)	46 (54.1)	85	
	女			1 (0.7)	1 (0.7)	1 (0.7)						4 (3.1)	45 (34.8)		2 (1.5)	75 (58.1)	129	
45~49	男		1 (1.1)	4 (4.4)	2 (2.2)	1 (1.1)	2 (2.2)	1 (1.1)		1 (1.1)		10 (11.2)	19 (21.3)		3 (3.3)	45 (50.5)	89	
	女					2 (1.8)	1 (0.9)			1 (0.9)		6 (5.6)	45 (42.0)		2 (1.8)	50 (46.7)	107	
40~44	男		1 (0.9)	4 (3.9)		5 (4.9)	1 (0.9)					7 (6.8)	25 (24.5)	1 (0.9)	1 (0.9)	57 (55.8)	102	
	女		3 (2.0)	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.7)	2 (1.3)					7 (4.8)	43 (29.8)			83 (57.6)	144	
計	男		4 (0.9)	15 (3.4)	3 (0.6)	14 (3.1)	8 (1.8)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)		54 (12.2)	84 (19.0)	1 (0.2)	10 (2.2)	245 (55.5)	441	
	女		3 (0.5)	3 (0.5)	3 (0.5)	12 (2.0)	5 (0.8)	1 (0.1)		1 (0.1)		29 (4.9)	191 (32.7)		8 (1.3)	327 (56.0)	583	

付記 胃ガンの疑全例は第2次精検及び手術により胃かいようあるいは胃炎の診断を受けた。

30 ~ 39 才 例

35~39	男		1 (2.1)		1 (2.1)							4 (8.5)	15 (31.9)			26 (55.3)	47
	女			1 (0.9)	2 (1.9)							3 (2.8)	25 (24.0)			73 (70.1)	104
30~34	男				2 (8.6)	1 (4.3)						5 (21.7)	4 (17.3)			11 (47.8)	23
	女		1 (1.9)		2 (3.9)							5 (9.8)	13 (25.4)			30 (58.8)	51

表 9 昭和38年度40才以上検診人員810例の年令別，病類別比較表（実数）（ ）内は%

病類別 年令	性	胃ガンの疑	食道ガン	胃かいよう	十二指腸かいよう	十二指腸憩室	脾のうしゆの疑	胃炎	胃下垂	胃切除の 後状態	所見なし	計
		70以上	男				1 (3.7)			4(14.8)		2 (7.4)
	女							1(7.1)	7(38.8)	1 (7.1)	9(50.0)	18
65~69	男	1 (4.0)		1 (4.0)	1 (4.0)			4(16.0)	3(12.0)		15(60.0)	25
	女	1 (5.2)	1疑(5.2)					2(10.5)	5(26.3)	1 (5.2)	9(47.3)	19
60~64	男	1 (2.1)			1 (2.1)		1(2.1)	8(17.3)	7(15.2)	3 (6.5)	25(54.3)	46
	女				1 (1.9)			8(15.6)	16(31.3)	1 (1.9)	25(49.0)	51
55~59	男	1 (2.2)		1 (2.2)	1 (2.2)			5(11.1)	11(24.4)		26(57.7)	45
	女							4(5.8)	19(27.9)	3 (4.4)	42(61.7)	68
50~54	男	1 (1.7)			1 (1.7)	1(1.7)		7(12.0)	8(13.7)		40(68.9)	58
	女				1 (1.0)			6 (6.4)	36(38.7)	3 (3.2)	47(50.5)	93
45~49	男	1 (1.2)	1 (1.2)		1 (1.2)		1(1.2)	6(7.4)	13(16.0)	5 (6.1)	53(65.4)	81
	女	1 (1.0)			1 (1.0)			8(8.6)	24(25.8)	1 (1.0)	58(62.8)	93
40~44	男	3 (4.1)		1 (1.3)	1 (1.3)			11(15.2)	14(19.1)	2 (2.6)	41(56.1)	73
	女	1 (0.8)		1 (0.8)				7(6.1)	33(29.2)		71(62.8)	113
計	男	8 (2.2)	1 (0.2)	3 (0.8)	7 (1.9)	1(0.2)	2(0.5)	45(12.6)	56(15.7)	12 (3.3)	220(61.9)	355
	女	3 (0.6)	1 (0.2)	1 (0.2)	3 (0.6)			36(7.9)	140(30.7)	10 (2.1)	261(57.3)	455

付記 胃ガンの疑全例及び食道癌の疑は第2次精検及び手術により胃かいようあるいは胃炎の診断を受けた。

30 ~ 39 才 例

35~39	男							11(20.7)	9(16.9)		33(62.2)	53
	女				1 (0.9)			13(12.6)	21(20.3)	1 (0.9)	67(65.0)	103
30~34	男							1 (4.3)	2(8.6)	2(8.6)	19(82.6)	24
	女				1 (2.5)			3(7.6)	11(28.2)		24(61.5)	39

表 10 昭和37年度40才以上病類別及び胃症状訴え比較表 (実数)

その1 男性

病類別 度	胃ガンの疑	胃かいよう	同疑	十二指腸かいよう	同疑	爆状胃	のう状胃	ポリプ	胃炎	胃下垂	アトニー	胃切除後の状態	所見なし	計
-	1	6	2	7	4	1		1	23	34		7	136	222
+	1	3	1	5	3		1		12	24		2	56	108 441
++~+++	2	6		2	1				19	26	1	1	53	111
計	4	15	3	14	8	1	1	1	54	84	1	10	245	441

その2 女性

病類別 度	胃ガンの疑	胃かいよう	同疑	十二指腸かいよう	同疑	十二指腸憩室	爆状胃	胃炎	胃下垂	胃切除後の状態	所見なし	計
-	2	1	2	4	1			11	90	5	171	287
+	1	1	1	1	2	1		18	61	2	98	175 583
++~+++	1	1	1	7	2		1	10	40	1	58	121
計	3	3	3	12	5	1	1	29	191	8	327	583

-……訴えなし +……軽度 ++~+++……中等度以上 (年齢別表は略す)

表 11 昭和38年度40才以上病類別及び胃症状訴え比較表 (実数)

その1 男性

病類別 度	胃ガンの疑	食道ガン	胃かいよう	十二指腸かいよう	十二指腸憩室	脾のうしゅの疑	胃炎	胃下垂	胃切除後の状態	所見なし	計
-	6	1	2	3	1	2	19	25	9	108	176
+	1		1	3			16	15	3	65	104 575
++~+++	1			1			10	16		47	35
計	8	1	3	7	1	2	45	56	12	220	355

その2 女性

病類別 度	胃ガンの疑	食道ガン	胃かいよう	十二指腸かいよう	胃炎	胃下垂	胃切除後の状態	所見なし	計
-		1		3	14	69	5	136	228
+	2		1		9	51	3	84	150 577
++~+++	1				13	20	2	41	45
計	3	1	1	3	36	140	10	261	455

-……訴えなし +……軽度 ++~+++……中等度以上 (年齢別表は略す)

表 12 30才以上検診人員年齢別性別血圧（縮期圧）ひん度比較表（実数）（ ）内は%

血圧mmHg 年齢	99		100~109	110~119	120~129	130~139	140~149	150~159	160~169	170~179	180~189	190~199	200以上	計
	男	女												
70以上	男		1(3.8)	2(7.6)	2(7.6)		5(19.2)	5(19.2)	2(7.6)	1(3.8)	7(26.9)	3(11.5)	3(11.5)	26
	女					4(14.2)	4(14.2)	4(14.2)	2(7.1)	5(17.8)	4(14.2)	5(17.8)	4(14.2)	28
65~69	男		1(2.7)	1(2.7)	3(8.3)	1(2.7)	5(13.8)	5(13.8)	4(11.1)	3(8.3)	4(11.1)	1(2.7)	8(22.2)	36
	女			1(2.7)		7(18.9)	6(16.2)	4(10.8)	1(2.7)	4(10.8)	3(8.1)	4(10.8)	7(18.9)	37
60~64	男				3(6.3)	7(14.8)	9(19.1)	4(8.5)	7(14.8)	6(12.7)	4(8.5)	2(4.2)	5(10.6)	47
	女			1(1.8)	1(1.8)	5(9.2)	7(12.9)	10(18.5)	6(11.1)	5(9.2)	7(12.9)	5(9.2)	7(12.9)	54
55~59	男			5(8.9)	6(10.7)	7(12.5)	7(12.5)	8(14.2)	6(10.7)	4(7.1)	5(8.9)	2(3.5)	6(10.7)	56
	女		1(1.1)	1(1.1)	6(7.1)	11(13.0)	10(11.9)	13(15.4)	14(16.6)	16(19.0)	1(1.1)	2(2.3)	9(10.7)	84
50~54	男		4(4.7)	11(12.9)	13(15.2)	16(18.8)	15(17.6)	10(11.7)	6(7.0)	2(2.3)	3(3.5)	2(2.3)	3(3.5)	85
	女		3(2.3)	1(0.7)	12(9.3)	30(23.4)	22(17.1)	19(14.8)	11(8.5)	8(6.2)	14(10.9)	7(5.4)	1(0.7)	128
45~49	男		2(2.2)	8(8.9)	25(28.0)	22(24.7)	13(14.6)	1(1.1)	9(10.1)	4(4.4)	3(3.3)	1(1.1)	1(1.1)	89
	女		2(1.8)	10(9.4)	15(14.1)	22(20.7)	21(19.8)	11(10.3)	11(10.3)	3(2.8)	4(3.7)	3(2.8)	4(3.7)	106
40~44	男		3(2.9)	17(16.5)	20(19.6)	32(31.3)	13(12.7)	8(7.8)	5(4.9)	2(1.9)	1(0.9)	1(0.9)		102
	女		3(2.0)	17(11.8)	31(21.5)	24(23.6)	20(13.8)	19(13.1)	4(2.7)	8(5.5)	2(1.3)	4(2.7)	2(1.3)	144
35~39	男			8(17.0)	14(29.7)	17(36.1)	2(4.2)	4(8.5)	1(2.1)		1(2.1)			47
	女	1(0.9)	1(0.9)	21(20.1)	31(29.8)	23(22.1)	8(7.6)	11(10.5)	5(4.8)	2(1.9)	1(0.9)			104
30~34	男				9(39.1)	6(26.0)	4(17.3)	2(8.6)	2(8.6)					28
	女		2(3.9)	9(17.6)	12(23.5)	11(21.5)	9(17.6)	6(11.7)	1(1.9)	1(1.9)				51
計	男		10(1.9)	51(9.9)	95(18.5)	110(21.5)	68(13.3)	47(9.1)	42(8.2)	22(4.3)	28(5.4)	12(2.3)	26(5.0)	511
	女	1(0.1)	12(1.6)	61(8.2)	108(14.6)	143(19.4)	107(14.5)	97(13.1)	55(7.4)	52(7.0)	36(4.8)	30(4.0)	34(4.6)	736

その2 昭和38年度

血圧mmHg 年令	性	99													計
		100~109	110~119	120~129	130~139	140~149	150~159	160~169	170~179	180~189	190~199	200以上			
70以上	男		1(3.7)			2(7.4)	3(11.1)	2(7.4)	5(18.5)	4(14.8)	3(11.1)	62(2.2)	27		
	女					3(16.6)	1(5.5)	3(16.6)	6(33.3)	2(11.1)	3(16.6)	18			
65~69	男			2(8.0)	8(12.0)	3(12.0)	3(12.0)	4(16.0)	3(12.0)	2(8.0)		5(20.0)	25		
	女			3(15.7)	3(15.7)	2(10.5)	2(10.5)	4(21.0)	1(5.2)	3(15.7)	1(5.2)	19			
60~64	男			2(4.3)	2(4.3)	10(21.7)	3(6.5)	8(17.3)	3(6.5)	7(15.2)	3(6.5)	8(17.3)	46		
	女			3(5.8)	4(7.8)	8(15.6)	8(15.6)	7(13.7)	7(13.7)	2(3.9)	5(9.8)	51			
55~59	男	1(2.2)	1(2.2)	5(11.1)	7(15.7)	10(22.2)	3(6.6)	5(11.1)	5(11.1)	2(4.4)	4(8.8)	2(4.4)	45		
	女			8(11.7)	5(7.3)	7(10.2)	14(20.5)	10(14.7)	8(11.7)	6(8.8)	4(5.8)	6(8.8)		68	
50~54	男			5(8.6)	8(13.7)	12(20.6)	11(18.9)	7(12.0)	10(17.2)		2(3.4)	1(1.7)	58		
	女	1(1.0)	3(3.2)	14(15.0)	14(15.0)	13(13.9)	11(11.8)	12(12.9)	8(8.6)	10(10.7)	3(3.2)	4(4.3)		98	
45~49	男	1(1.2)	9(11.1)	22(27.1)	20(24.6)	13(16.0)	7(8.6)	2(2.4)	2(2.4)	3(3.7)		1(1.2)	81		
	女	1(1.0)	5(5.3)	17(18.2)	14(15.0)	15(16.1)	17(18.2)	6(6.4)	3(3.2)	5(5.3)	1(1.0)	3(3.2)		98	
40~44	男		3(4.1)	11(15.2)	22(30.1)	19(16.0)	3(4.1)	4(5.4)	1(1.3)				73		
	女		5(4.4)	14(12.3)	21(18.5)	21(18.5)	32(28.3)	8(7.0)	5(4.4)	3(2.6)	3(2.6)	1(0.8)		113	
35~39	男		2(3.7)	4(7.5)	14(26.4)	17(32.0)	7(13.2)	3(5.6)	2(3.7)	1(1.8)			53		
	女		3(2.9)	15(14.5)	34(33.0)	25(24.2)	15(14.5)	5(4.8)	1(0.9)	1(0.9)				108	
30~34	男			1(4.3)	5(20.8)	7(29.1)	5(20.8)	4(16.6)	2(8.6)				24		
	女		1(2.5)	8(20.5)	12(30.7)	1(2.5)	2(5.1)	5(12.8)	1(2.5)					39	
計	男	2(0.4)	6(1.3)	32(7.4)	81(18.7)	87(20.1)	71(16.4)	36(8.3)	40(9.2)	21(4.8)	11(2.5)	24(5.5)	432		
	女	1(0.1)	16(2.6)	45(7.5)	109(18.2)	98(16.4)	97(16.3)	64(10.7)	52(8.7)	38(6.4)	15(2.5)	23(3.8)		597	

表 13 30才以上検診人員年令別性別血圧（ち期圧）ひん度比較表（実数）（ ）内は%

その1 昭和37年度

血圧 mmHg 年令 性別	昭和37年度										計
	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90 ~ 99	100 ~ 109	110 ~ 119	120 以上			
70 以上	男			1(3.8)	5(19.2)	10(38.4)	5(19.2)	4(15.8)	1(3.8)		26
	女			3(10.3)	4(14.2)	13(46.4)	4(14.2)	5(6.8)	2(6.8)		28
65 ~ 69	男			8(22.2)	2(5.5)	11(30.5)	7(19.4)	6(16.6)	2(5.5)		36
	女	1(2.7)		3(8.1)	8(21.6)	11(29.7)	7(18.9)	3(8.1)	4(10.8)		37
60 ~ 64	男			4(8.5)		10(21.2)	17(36.1)	9(19.1)	1(2.1)		47
	女			7(12.9)		8(14.8)	16(29.6)	10(18.5)	4(7.4)		54
55 ~ 59	男			7(12.5)	2(3.5)	10(17.8)	15(26.7)	10(17.8)	4(7.1)		56
	女			6(7.1)		13(15.4)	28(33.3)	17(20.2)	8(9.5)		84
50 ~ 54	男	1(1.1)		22(25.8)	2(2.3)	25(29.4)	21(24.7)	6(8.0)	4(4.7)		85
	女	1(0.7)		9(7.0)	1(0.7)	45(35.1)	36(28.1)	18(14.0)	3(2.3)		128
45 ~ 49	男			14(15.7)	3(3.4)	29(32.5)	18(20.2)	15(16.8)	4(4.4)		89
	女	1(0.9)		22(20.7)	2(1.8)	23(21.6)	36(33.9)	13(12.2)	3(2.8)		106
40 ~ 44	男			16(15.6)	6(5.8)	35(34.3)	30(29.4)	10(9.8)	2(1.9)		102
	女			34(23.6)	4(2.7)	43(29.8)	38(25.0)	16(11.1)	4(2.7)		144
35 ~ 39	男			3(6.3)		21(44.6)	18(38.2)	3(6.3)	2(4.2)		47
	女			26(25.0)	4(3.8)	39(37.5)	25(24.0)	8(7.6)	2(1.9)		104
30 ~ 34	男			4(17.3)	2(8.6)	9(39.1)	5(21.7)	1(4.3)	2(8.6)		28
	女			9(17.6)	5(9.8)	16(31.3)	18(35.2)	2(3.9)	1(1.9)		51
計	男	1(0.1)	15(2.9)	79(15.4)	146(28.5)	145(28.3)	66(12.9)	41(8.0)	18(3.5)		511
	女	2(0.2)	17(2.3)	119(16.1)	199(27.0)	219(29.7)	95(12.9)	57(7.7)	28(3.8)		736

その2 昭和38年度

血圧 mmHg		50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90 ~ 99	100~109	110~119	120 以上	計
年令	性									
70 以上	男			1 (3.7)	6(22.2)	7(25.9)	6(22.2)	5(18.5)	2(7.4)	27
	女	1 (5.5)		3(16.6)	3(16.6)	5(27.7)	4(22.2)	2(11.1)		18
65 ~ 69	男			2(8.0)	7(28.0)	8(32.0)	2(8.0)	1(4.0)	5(20.0)	25
	女			1(5.2)	7(36.8)	4(21.0)	2(10.5)	3(15.7)	2(10.5)	19
60 ~ 64	男			3(6.5)	6(13.0)	20(43.4)	9(19.5)	1(2.1)	7(15.2)	46
	女			4(7.8)	13(25.4)	16(31.3)	11(21.5)	1(5.8)	4(7.8)	51
55 ~ 59	男		1(2.2)	2(4.4)	7(15.7)	14(31.1)	12(26.6)	6(13.3)	3(6.6)	45
	女			3(4.4)	19(27.9)	21(30.8)	14(20.5)	9(13.2)	2(2.9)	68
50 ~ 54	男			7(12.0)	15(25.8)	24(41.3)	4(6.8)	6(10.3)	2(3.4)	58
	女	1(1.0)		7(7.5)	31(33.3)	29(31.1)	12(12.9)	10(10.7)	3(3.2)	93
45 ~ 49	男	1(1.2)	3(3.7)	13(16.0)	32(39.5)	16(19.7)	7(8.6)	5(6.1)	4(4.9)	81
	女	1(1.0)	2(2.1)	12(12.9)	34(36.5)	26(27.9)	9(9.6)	5(5.3)	4(4.2)	93
40 ~ 44	男		1(1.3)	13(17.8)	29(39.7)	20(27.3)	6(8.2)	3(4.1)	1(1.3)	73
	女		3(2.6)	21(18.5)	44(38.9)	31(27.4)	9(7.9)	1(0.8)	4(3.5)	113
35 ~ 39	男			15(28.3)	20(37.7)	12(22.6)	4(7.5)	2(3.7)		53
	女		5(4.8)	20(19.4)	40(38.8)	28(27.1)	9(8.7)	1(0.9)		103
30 ~ 34	男		2(8.6)	4(16.6)	8(33.3)	7(29.1)	3(12.5)			24
	女		2(5.1)	11(28.2)	12(30.7)	9(23.0)	4(10.2)	1(2.5)		39
計	男	1(0.2)	7(1.6)	60(13.8)	130(30.0)	128(29.6)	53(12.2)	29(6.7)	24(5.5)	432
	女	3(5.0)	12(2.0)	82(13.7)	203(34.0)	169(28.3)	74(12.8)	35(5.8)	19(3.1)	597

表 14 30才以上検診人員 1,247 例の血圧（縮期圧）の Master の規準による分類比較表（実数）（ ）内は%

その 1 昭和 37 年度

年齢	性別	Master の規準			低血圧	亜低血圧	正 常	亜高血圧	高血圧	計	
		低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg							
70 以上	男						13(50.0)	7(26.9)	6(23.0)	26	54
	女						15(53.5)	4(14.2)	9(32.1)	28	
65 ~ 69	男				1(2.7)		20(55.5)	6(16.6)	9(25.0)	36	73
	女						22(59.4)	4(10.8)	11(29.7)	37	
60 ~ 64	男	108	115~170	190			32(68.0)	8(17.0)	7(14.8)	47	101
	女	105	115~175	190		1(1.8)	34(62.9)	7(12.9)	12(22.2)	54	
55 ~ 59	男	106	115~165	180		4(7.1)	30(53.5)	8(14.2)	14(25.0)	56	140
	女	105	110~170	180	1(1.1)		59(70.2)	12(14.2)	12(14.0)	84	
50 ~ 54	男	105	115~160	175	1(1.1)	1(1.1)	70(82.3)	5(5.8)	8(9.4)	85	213
	女	105	110~165	180		2(1.5)	91(71.0)	13(10.1)	22(17.1)	128	
45 ~ 49	男	104	110~155	170		2(2.2)	71(79.7)	7(7.8)	9(10.1)	89	195
	女	100	105~155	175			80(75.4)	13(12.2)	13(12.2)	106	
40 ~ 44	男	102	110~150	165		1(0.9)	88(86.2)	8(7.8)	5(4.9)	102	246
	女	100	105~155	175		1(0.6)	118(81.9)	14(9.7)	11(7.6)	144	
35 ~ 39	男	102	110~145	160			40(85.1)	5(10.6)	2(4.2)	47	151
	女	100	105~140	150	1(0.9)		78(75.0)	6(5.7)	19(18.2)	104	
30 ~ 34	男	100	110~145	155			16(69.5)	5(21.7)	2(8.6)	23	74
	女	98	102~135	145			31(60.7)	10(19.6)	10(19.6)	51	
計	男				2(0.3)	8(1.5)	380(74.3)	59(11.5)	62(12.1)	511	1,247
	女				2(0.2)	4(0.4)	528(71.7)	83(11.2)	119(16.1)	736	

年 令	血 圧 性	Master の 規 準			低 血 圧	亜 低 血 圧	正 常	亜 高 血 圧	高 血 圧	計
		低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg						
70 以上	男						13(48.1)	6(22.2)	8(29.6)	27
	女						5(27.7)	9(50.0)	4(22.2)	18
65 ~ 69	男						17(68.0)	3(12.0)	5(20.0)	25
	女						12(63.1)	4(21.0)	3(15.7)	19
60 ~ 64	男	108	115~170	190			26(56.5)	11(23.9)	9(19.5)	46
	女	105	115~175	190			34(65.3)	12(23.0)	5(9.8)	51
55 ~ 59	男	106	115~165	180	1(2.2)		31(68.8)	7(15.6)	6(13.3)	45
	女	105	110~170	180			48(70.5)	5(7.3)	15(22.0)	68
50 ~ 54	男	105	115~160	175		1(1.7)	46(79.3)	6(10.3)	5(8.6)	58
	女	105	110~165	180		1(11.0)	65(69.8)	13(13.9)	14(15.0)	93
45 ~ 49	男	104	110~155	170	2(2.4)		70(86.4)	3(3.7)	6(7.4)	81
	女	100	105~155	175	1(1.0)	1(1.0)	70(75.2)	11(11.8)	11(11.8)	93
40 ~ 44	男	102	110~150	165			69(94.5)	3(4.1)	1(1.3)	73
	女	100	105~155	175		1(0.8)	99(87.6)	8(7.0)	5(4.4)	113
35 ~ 39	男	102	110~145	160		1(1.8)	39(73.5)	6(11.3)	7(13.2)	53
	女	100	105~140	150			83(80.5)	10(9.7)	10(9.7)	103
30 ~ 34	男	100	110~145	155			17(70.8)	4(16.6)	3(12.5)	24
	女	98	102~135	145		1(2.5)	25(64.1)	7(17.9)	6(15.3)	39
計	男				3(0.6)	2(0.4)	328(75.9)	46(11.3)	50(11.5)	432
	女				1(0.1)	4(0.6)	441(73.8)	79(13.2)	72(12.0)	597
										1,029

表 15

30才以上検診人員1,247の血圧（ち期圧）の Master の規準による分類比較表（実 数）（ ）内は%

その 1 昭和 37 年度

年 令	性	Master の 規 準			低 血 圧	垂 低 血 圧	正 常	垂 高 血 圧	高 血 圧	計	
		低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg							
70 以上	男						16(61.5)	5(25.0)	5(25.0)	26	54
	女						21(75.0)	3(10.7)	4(14.2)	28	
65 ~ 69	男						21(58.3)	6(16.6)	9(25.0)	36	73
	女						23(62.1)	7(18.9)	7(18.9)	37	
60 ~ 64	男	60	70 ~ 98	110			31(65.9)	9(19.1)	7(14.8)	47	101
	女	60	70 ~ 100	110			36(66.6)	6(11.1)	12(22.2)	54	
55 ~ 59	男	60	70 ~ 98	108			34(60.7)	8(14.2)	14(25.0)	56	140
	女	60	70 ~ 100	108			54(64.2)	8(9.5)	22(26.1)	84	
50 ~ 54	男	60	70 ~ 98	106	1(1.1)	1(1.1)	69(81.1)	5(5.8)	9(10.5)	85	213
	女	60	70 ~ 100	108		1(0.7)	95(74.2)	8(6.2)	24(18.7)	128	
45 ~ 49	男	60	70 ~ 96	104		1(1.1)	59(66.2)	13(14.6)	16(17.9)	89	195
	女	60	65 ~ 96	105	1(0.9)		79(74.5)	14(13.2)	12(11.3)	106	
40 ~ 44	男	60	70 ~ 94	100			76(74.5)	11(10.7)	15(14.7)	102	246
	女	60	65 ~ 92	100			96(66.6)	24(16.6)	14(16.6)	144	
35 ~ 39	男	60	68 ~ 92	100			33(70.2)	9(19.1)	5(10.6)	47	151
	女	60	65 ~ 90	98			78(75.0)	11(10.5)	15(14.4)	104	
30 ~ 34	男	60	68 ~ 92	98			16(69.5)	3(13.0)	4(17.3)	23	74
	女	55	60 ~ 88	95			30(58.8)	12(23.5)	9(17.6)	51	
計	男				1(0.1)	2(0.2)	355(69.9)	69(13.5)	84(16.4)	511	1,247
	女				1(0.1)	1(0.1)	512(69.5)	93(12.6)	129(17.5)	736	

年 令	性	Master の 規 準			低 血 圧	亜 低 血 圧	正 常	亜 高 血 圧	高 血 圧	計
		低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg						
70 以上	男						14(51.8)	9(33.3)	4(14.8)	27
	女						14(77.7)	2(11.1)	2(11.1)	18
65 ~ 69	男						17(68.0)	2(8.0)	6(24.0)	25
	女						13(72.2)	2(10.5)	4(21.0)	19
60 ~ 64	男	60	70 ~ 98	110			30(65.2)	8(17.3)	8(17.0)	46
	女	60	70 ~100	110			34(65.3)	10(19.2)	7(15.3)	51
55 ~ 59	男	60	70 ~ 98	108		1(2.2)	23(51.1)	12(26.6)	9(20.0)	45
	女	60	70 ~100	108			53(77.9)	5(7.3)	10(14.7)	68
50 ~ 54	男	60	70 ~ 98	106			47(81.0)	4(6.8)	7(12.0)	58
	女	60	70 ~100	108			74(79.5)	6(6.4)	13(13.9)	93
45 ~ 49	男	60	70 ~ 96	104	1(1.2)	1(1.2)	64(73.0)	5(6.1)	10(12.3)	81
	女	60	95 ~ 96	105	1(1.2)		71(76.3)	9(9.6)	12(12.9)	93
40 ~ 44	男	60	70 ~ 94	100		1(1.3)	59(80.8)	5(6.8)	8(10.9)	73
	女	60	65 ~ 92	100			83(72.5)	19(16.8)	11(9.7)	113
35 ~ 39	男	60	68 ~ 92	100			43(81.1)	6(11.3)	4(7.5)	53
	女	60	65 ~ 90	98			76(73.7)	16(15.5)	11(10.6)	103
30 ~ 34	男	60	68 ~ 92	98		1(4.1)	17(70.8)	3(12.5)	3(12.5)	24
	女	55	60 ~ 88	95			25(64.1)	6(15.3)	8(20.5)	39
計	男				1(0.2)	4(0.9)	314(72.6)	54(12.5)	59(13.6)	432
	女				1(0.1)		443(74.2)	75(12.5)	78(13.0)	579

表 16 30才以上1,247例の Master の規準による縮期圧とち期圧の組合せ比較表(実数)()内は%

その 1 昭和 37 年度

年 令	血 圧 縮 ち 性	I 高血圧	II 高血圧 亜高血圧	III 高血圧 正 常	IV 亜高血圧 高血圧	V 亜高血圧 亜高血圧	VI 亜高血圧 正 常	VII 正 常 高血圧	VIII 正 常 亜高血圧	異常群 計	正 常	計
		70 以上	男	3(11.5)	2(7.6)	1(3.8)	1(3.8)	1(3.8)	5(19.2)	1(3.8)	2(7.6)	16(61.5)
	女	1(3.5)	2(7.1)	6(21.4)	2(7.1)		2(7.1)	1(3.5)	1(3.5)	15(53.5)	13(46.4)	28
65 ~ 69	男	6(16.6)	1(2.7)	2(5.5)	1(2.7)	3(8.3)	2(5.5)	2(5.5)	2(5.5)	19(52.7)	17(47.2)	36
	女	3(8.1)	3(8.1)	5(13.5)	2(5.4)	1(2.7)	1(2.7)	2(5.4)	3(8.1)	20(54.0)	17(45.9)	37
60 ~ 64	男	3(6.3)	2(4.2)	2(4.2)	1(2.1)	4(8.5)	3(6.3)	3(6.3)	3(6.3)	21(44.6)	26(55.3)	47
	女	6(11.1)	4(7.4)	2(3.7)	3(5.5)		4(7.4)	3(5.5)	2(3.7)	24(44.4)	30(55.5)	54
55 ~ 59	男	9(16.0)	2(3.5)	3(5.3)	5(8.9)	2(3.5)	1(1.7)	9(10.7)	4(7.1)	26(46.4)	30(53.5)	56
	女	8(9.5)	2(2.3)	2(2.3)	5(5.9)	1(1.1)	5(5.9)		6(7.1)	38(45.2)	46(54.7)	84
50 ~ 54	男	6(7.20)	1(1.1)	1(1.1)	3(3.5)		2(2.3)		4(4.7)	17(20.0)	68(80.0)	85
	女	14(10.9)	3(2.3)	5(3.9)	5(3.9)		8(6.2)	5(3.9)	5(3.9)	45(35.1)	83(64.8)	128
45 ~ 49	男	7(7.8)	2(2.2)		5(5.6)	2(2.2)		4(4.4)	9(10.1)	29(32.5)	60(67.4)	89
	女	9(8.4)	3(2.8)	1(0.9)	2(1.8)	5(4.7)	6(5.6)	1(0.9)	6(5.6)	33(31.1)	73(68.8)	106
40 ~ 44	男	4(3.9)		1(0.9)	6(5.8)	2(1.9)	1(0.9)	5(4.9)	9(8.8)	28(27.4)	74(72.5)	102
	女	11(7.6)			9(6.2)	4(2.7)	1(0.6)	7(4.8)	20(13.8)	52(36.1)	92(63.8)	144
35 ~ 39	男	1(2.1)		4(3.8)	3(6.3)	1(2.1)	1(2.1)	1(2.1)	6(12.6)	14(29.7)	33(70.2)	47
	女	11(10.5)	1(2.1)	4(3.8)	2(1.9)	1(0.9)	3(2.8)	2(1.9)	6(5.7)	33(31.7)	71(68.2)	104
30 ~ 34	男	2(8.6)				2(8.6)	3(13.0)	1(4.3)	1(4.3)	9(39.1)	14(60.8)	23
	女	4(7.8)	4(7.8)	2(3.9)	3(5.8)	4(7.8)	3(5.8)	2(3.9)	4(7.8)	26(50.9)	25(49.0)	51
計	男	41(18.0)	11(2.1)	10(1.9)	25(4.8)	17(3.3)	18(3.5)	17(3.3)	40(7.8)	179(35.0)	332(64.9)	511
	女	67(9.1)	25(3.3)	27(3.6)	33(4.4)	16(2.1)	33(4.4)	32(4.3)	53(7.2)	286(38.8)	450(61.1)	736
												1,247

水上・本多：成人病集団検診(第2報)

年 令	血 圧 縮 小 性	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	異常群 計	正 常	計
		高血圧 高血圧	高血圧 亜高血圧	高血 正 常	亜高血圧 高血圧	亜高血圧 亜高血圧	亜高血圧 正 常	正 常 高血圧	正 常 亜高血圧			
70 以上	男	2(7.4)	2(7.4)	4(14.8)	1(3.7)	3(11.1)	2(7.4)	1(3.7)	4(14.8)	19(70.3)	8(29.6)	27
	女	1(5.5)	1(5.5)	2(11.1)		1(5.5)	8(44.4)	1(5.5)		14(77.7)	4(22.2)	18
65 ~ 69	男	4(16.6)		1(4.0)	2(8.0)		1(4.0)		2(8.0)	10(40.0)	15(60.0)	25
	女	2(10.5)		1(5.2)	1(5.2)		2(10.5)	1(5.2)	2(10.5)	9(47.3)	10(52.6)	19
60 ~ 64	男	4(8.6)	3(6.5)	2(4.3)	3(6.5)	4(8.6)	3(6.5)	1(4.3)	2(4.3)	22(47.8)	24(52.6)	46
	女	3(5.8)	1(1.9)	1(1.9)	4(7.8)	5(9.8)	4(7.8)		5(9.8)	23(45.0)	28(54.9)	51
55 ~ 59	男	4(8.8)	2(4.4)		4(8.8)	2(4.4)	1(2.2)	1(2.2)	8(17.6)	22(48.8)	23(51.1)	45
	女	5(7.3)	4(5.8)	6(8.8)	2(2.9)		3(4.4)	3(4.4)	1(1.4)	24(35.2)	44(64.7)	68
50 ~ 54	男	3(5.1)	1(1.7)	1(1.7)	2(3.4)	1(1.7)	3(5.1)	3(5.1)	2(3.4)	16(27.5)	42(72.4)	58
	女	10(10.1)	2(2.1)	3(3.2)	1(1.0)	3(3.2)	9(9.6)	2(2.1)	1(1.0)	31(33.3)	62(66.6)	93
45 ~ 49	男	6(7.4)			2(2.4)	1(1.2)		2(2.4)	4(4.9)	15(18.5)	66(81.4)	81
	女	7(7.5)	2(2.1)	2(2.1)	2(2.1)	3(3.2)	6(6.4)	4(4.3)	3(3.2)	29(31.1)	64(68.8)	93
40 ~ 44	男	3(4.1)			1(1.3)	1(1.3)	1(1.3)	4(5.5)	6(8.2)	16(21.9)	57(78.0)	73
	女	4(3.5)		1(0.8)	3(2.6)	4(3.5)	1(0.8)	4(3.5)	14(12.3)	31(27.4)	82(72.5)	113
35 ~ 39	男	2(3.7)	2(3.7)	3(5.6)	2(3.7)	2(3.7)	2(3.7)		1(1.8)	14(26.4)	39(73.5)	53
	女	6(5.8)	4(3.8)		3(2.9)	4(3.8)	3(2.9)	2(1.9)	9(8.7)	31(30.0)	72(69.9)	103
30 ~ 34	男	1(4.1)	1(4.1)	1(4.3)	1(4.1)		3(12.5)	1(1.4)	2(8.3)	10(41.6)	14(58.3)	24
	女	7(17.9)				1(2.5)	5(12.8)	1(2.5)	5(12.8)	19(48.7)	20(51.2)	39
計	男	29(6.7)	11(2.5)	12(2.7)	18(4.1)	14(3.2)	16(3.7)	13(3.0)	31(7.1)	144(33.3)	288(66.6)	432
	女	45(7.5)	14(2.3)	16(2.6)	16(2.6)	21(3.5)	41(6.8)	18(3.0)	40(6.7)	211(35.3)	386(64.6)	597

表 17 30才以上1,247例の Master の規準による縮期圧とち期圧の組合せ比較表

2. 心変形型群（実数）

その 1 昭和37年度（ ）内は心変形型例

性	血圧 縮ち	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	異常群 計	正常	計
		高血圧 高血圧	高血圧 亜高血圧	高血圧 正常	亜高血圧 高血圧	亜高血圧 亜高血圧	亜高血圧 正常	正常 高血圧	正常 亜高血圧			
男		41(15) 36%	11(2) 18%	10(5) 50%	25(5) 20%	17(4) 23%	18(4) 22%	17(4) 23%	40(4) 10%	179(43) 24%	322(17) 5%	511(60) 11% 1,247
女		67(29) 43%	25(5) 20%	27(8) 29%	33(12) 36%	16(4) 25%	33(8) 24%	32(8) 25%	53(5) 9%	286(79) 27%	450(39) 8%	736(118) 16%
計		108(44) 40%	36(7) 19%	37(13) 35%	58(17) 29%	33(8) 24%	51(12) 23%	49(12) 24%	93(9) 9%	465(122) 26%	782(56) 7%	1,247 14%

その 2 昭和38年度

性	血圧 縮ち	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	異常群 計	正常	計
		高血圧 高血圧	高血圧 亜高血圧	高血圧 正常	亜高血圧 高血圧	亜高血圧 亜高血圧	亜高血圧 正常	正常 高血圧	正常 亜高血圧			
男		29(5) 17%	11(1) 9%	12(4) 33%	18(3) 16%	14(1) 7%	16(1) 6%	13(1) 7%	31(4) 12%	144(20) 13%	288(4) 1%	432(24) 5% 1,029
女		45(4) 8%	14	16(2) 12%	16(2) 12%	21(3) 14%	41(5) 12%	18(3) 16%	40(4) 10%	211(23) 10%	386(4) 1%	597(27) 4%
計		74(9) 12%	25(1) 4%	28(6) 21%	34(5) 14%	35(4) 11%	57(6) 10%	31(4) 12%	71(8) 11%	355(43) 12%	674(8) 1%	1,029 (51) 4%

(その 1, 2 の年齢別表は略す)

表 18 30才以上1,247例の Master の規準による縮期圧とち期圧の組合せ比較表

3. たん白陽性群

その 1 昭和37年度（ ）内はたん白陽性例（実数）

性	血圧 縮ち	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	異常群 計	正常	計
		高血圧 高血圧	高血圧 亜高血圧	高血圧 正常	亜高血圧 高血圧	亜高血圧 亜高血圧	亜高血圧 正常	正常 高血圧	正常 亜高血圧			
男		41(9) 21%	11(4) 36%	10(7) 70%	25(6) 24%	17(6) 35%	18(3) 18%	17(7) 41%	40(3) 7%	179(45) 25%	332	1,247 (130) 10%
女		67(26) 38%	25(6) 24%	27(8) 29%	33(11) 33%	16(6) 37%	33(14) 42%	32(9) 28%	53(5) 9%	286(85) 29%	450	2,247 (130) 10%
計		108(35) 32%	36(10) 27%	37(15) 29%	58(17) 29%	33(12) 36%	51(17) 33%	49(16) 32%	93(8) 8%	465(130) 27%	781	

その 2 昭和38年度

性	血圧 縮ち	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	異常群 計	正常	計
		高血圧 高血圧	高血圧 亜高血圧	高血圧 正常	亜高血圧 高血圧	亜高血圧 亜高血圧	亜高血圧 正常	正常 高血圧	正常 亜高血圧			
男		29(5) 17%	11(1) 9%	12(3) 25%	18(1) 5%	14(1) 7%	16	13	31	144(11) 7%	288(12) 4%	432(23) 5% 1,029
女		45(5) 11%	14(1) 7%	16(3) 18%	16(1) 6%	21(2) 9%	41(3) 7%	18(2) 11%	40(2) 5%	211(19) 9%	386(11) 5%	597(30) 5%
計		74(10) 13%	25(21) 8%	28(6) 21%	34(2) 5%	35(3) 8%	57(3) 5%	31(2) 6%	71(2) 2%	355(30) 8%	674(23) 3%	1,029 (53) 5%

(その 1, 2 の年齢別表は略す)

表 19 30才以上1,247例の Master の規準による縮期圧とち期圧の組合せ比較表

4. 高血圧治療群

その 1 昭和37年度 () 内は高血圧治療例 (実数)

血圧 縮ち 性	I 高血圧 高血圧	II 高血圧 亜高血圧	III 高血圧 正 常	IV 亜高血圧 高血圧	V 亜高血圧 亜高血圧	VI 亜高血圧 正 常	VII 正 常 高血圧	VIII 正 常 亜高血圧	異常群 計	正 常	計
	男	41(16) 39%	11(1) 9%	10(5) 50%	25(5) 40%	17(3) 17%	18(5) 29%	17	40(5) 11%	179(40) 22%	332(52) 10%
女	67(31) 46%	25(6) 24%	27(10) 37%	33(10) 30%	16(4) 25%	33(6) 18%	32(6) 18%	53(8) 15%	286(81) 28%	736(103) 14%	736(103) 113%
計	108(47) 43%	36(7) 19%	37(15) 40%	58(15) 25%	33(7) 21%	51(11) 21%	49(6) 12%	93(13) 13%	465(121) 26%	782(34) 4%	1,249 (155) 12%

その 2 昭和38年度

血圧 縮ち 性	I 高血圧 高血圧	II 高血圧 亜高血圧	III 高血圧 正 常	IV 亜高血圧 高血圧	V 亜高血圧 亜高血圧	VI 亜高血圧 正 常	VII 正 常 高血圧	VIII 正 常 亜高血圧	異常群 計	正 常	計
	男	29(6) 20%	11(4) 36%	12(2) 16%	18(9) 50%	14(2) 14%	16(2) 12%	13	31(3) 9%	144(28) 19%	288(4) 10%
女	45(14) 31%	14(4) 28%	16(5) 31%	16(2) 12%	21(2) 9%	41(9) 21%	18(3) 16%	40(3) 7%	211(42) 19%	386(7) 1%	1,029 597(49) 8%
計	74(20) 27%	25(8) 32%	28(7) 25%	34(11) 32%	35(4) 11%	57(11) 19%	31(3) 4%	71(6) 8%	355(70) 19%	674(11) 1%	1,029 (81) 7%

(その 1, 2 の年令別表は略す)

表 20 肺結核, けい肺結核年令別比較表 (実数)

その 1 昭和37年度

年令	性別	病 類 別	
		肺 結 核	け い 肺
70以上	男	1	
	女	4	
65~69	男	4	
	女	1	
60~64	男	2	1
	女	5	
55~59	男	2	1
	女	1	
50~54	男	2	3
	女	1	
45~49	男	1	
	女	2	
40~44	男		1
	女	4	
35~39	男	2	
	女	4	
30~34	男		
	女		
計	男	14	6
	女	22	

その 2 昭和38年度

年令	性別	病 類 別	
		肺 結 核	け い 肺
70以上	男	1	
	女		
65~69	男		
	女		
60~64	男	2	
	女		
55~59	男		3
	女		
50~54	男	3	1
	女		
45~49	男	1	2
	女		
40~44	男	2	1
	女		
35~39	男		
	女		
30~34	男		
	女		
計	男	8	7
	女	1	

表 21 年令別検便虫卵比較表（実数）

その1 昭和37年度

病類別	年令 性別	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計	
		十二指腸虫	男女						1		1	
かい虫	男	1	1	4	5	4	2	2		1	20	73
	女	1	6	13	9	13	3	3	3	2	53	
べん虫	男	2	6	4	4	4		2	1		23	64
	女	4	9	11	7	3	4		2	1	41	
東洋毛様線虫	男女			2	3			1			6	6
検診人員	男	17	47	95	80	74	43	41	27	21	445	1,064
	女	45	83	127	86	106	72	50	25	25	619	

その2 昭和38年度

病類別	年令 性別	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計	
		十二指腸虫	男女				1					
かい虫	男	1	2	7	3	4	3	2	2	2	19	59
	女	2	11	7	3	8	1	7		1	40	
べん虫	男		2	2	1	2					7	40
	女		6	6	6	8	7				33	
ぎょう虫	男女		1	1							1	3
検診人員	男	21	51	69	78	56	43	46	22	24	410	938
	女	31	92	102	80	78	65	48	16	16	528	

表 22 昭和38年度までの3年間における受診状況比較表

性別	年度 3年連続群	2年群			38年 初回群	計
		36. 38年	37. 38年	計		
男	94 (22%)	41	103	144 (33%)	192 (44%)	430
女	117 (19%)	82	117	199 (33%)	283 (47%)	599
計	211 (20%)	123	220	343 (33%)	475 (46%)	1,029